

ほんのちょっとした

教育相談専門員 沼波かおり

人より血管が細いらしく、人間ドックの採血のときは、私のうしろにけっこう長い行列ができる。若い看護師さんのときは、あちこち3~4回針をさされるのもいつものことなので、最近では前もって必ず、「いつも時間がかかりご迷惑をおかけしています」とはっきり言うようにしている。

先日、例によって採血の順番がせまり、憂鬱になっていたとき、その日の看護師さんは、「思い切って横になってもらって採ってみましょう」と別室に案内してくれ、見事に一発で採血成功。思わず彼女の口から「朝一番のグッジョブです!」という声。「人生最短の採血でした!」とお礼を言う私と、二人で思わず爆笑。バリウムも飲んで、いつもだったら最悪な気分なのだが、その日一日しあわせだった。

近頃、幼い子を抱えたお母さんたちは大変らしい。電車やバスといった公共交通機関で移動するとき、子どもがぐずると周囲から冷たい視線を浴び、子どもをなだめるためにスマホを使うとまた別の意味で冷たい視線を向けられるという。



こんなとき、NHKあさイチキャスター、イノッチこと井ノ原快彦さんが提案のピヨピヨスイッチがあれば・・・と思う。(電車のなかで子どもが泣いたりぐずったりしたときに、気にしなくて大丈夫ですよ、という気持ちを表明するために「ぴよぴよ」音のでるスイッチがあればいいな・・・という提案。) ちょっとしたまなざしや声かけで救われるお母さんたちもたくさんいるはずだ。

他人を思いやること、その大切さを力説する人は多いが、実践できる人は、大人でもそう多くはない。時代が不寛容に傾斜している今だからこそ、ゆるやかに、かろやかに「共に生きる」手だてを見つけないといけない。

相談室を訪ねてくる人たちは、悩みを抱えて来ているわけだから当然表情は暗い。ときには過去のつらい体験を思い出して涙ぐむこともしばしば。そんなときこそ、せめて笑顔で退室してほしいと思う。生死に直接かわるハードなケースは別として、相手がクスッと笑ってくれれば上々の出来だ。ほんのちょっとしたユーモアとサービス精神で、今日も素敵なお一日にしたい。

☆ カウンセラーの先生方が来校されます ☆

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

《カウンセラーの先生と7月の相談日》

- 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)
毎週火曜日、木曜日 午後1時~6時 (最終7月13日(木))
- 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)
毎週月曜日、金曜日 午後7時~9時 (最終7月14日(金))
- 鷺見 栄子先生 (社会福祉士)
7月5日(水)、12日(水) 午後4時~6時

☆ 生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★ 保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・服部・松原)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。

★ 本校の特別支援教育コーディネーターは、服部と松原です。何かございましたら、遠慮なくご相談ください。